

Docket 44981-001

#6

PATENT

12-02-01
DW

TRANSMITTAL OF CERTIFIED PRIORITY DOCUMENT(S)

In re Application of

Shigeo OZAWA

Serial No. 09/519,999

Filed: March 6, 2000

:
:
:
: Group Art Unit: 1761

:
: Examiner: R. Madsen
:

For: AN ACCOMODATION BAG

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

At the time the above application was filed, priority was claimed based on the following applications(s):

Japanese Patent Application No. 11-313128 filed

November 2, 1999

A copy of each priority application listed above is enclosed.

LOWE HAUPTMAN GILMAN & BERNER, LLP

Kenneth M. Berner

Kenneth M. Berner
Registration No. 37,093

1700 Diagonal Road, Suite 310
Alexandria, Virginia 22314
(703) 684-1111
(703) 518-5499 Facsimile
Date: December 3, 2001
KMB/lcw



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年11月 2日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第313128号

出 願 人

Applicant(s):

株式会社 オフィス オザワ

RECEIVED

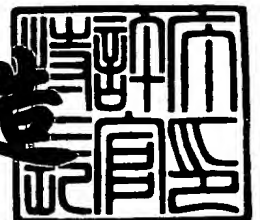
DEC 05 2001

TC 1700

2001年 5月25日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3044701

【書類名】 特許願
【整理番号】 K1751H01
【あて先】 特許庁長官 近 藤 隆 彦 殿
【国際特許分類】 A47J 27/00
B65D 81/34

【発明者】
【住所又は居所】 東京都港区三田二丁目 7 番 9 号
【氏名】 小 澤 学 道

【特許出願人】
【住所又は居所】 東京都港区三田二丁目 7 番 9 号
【氏名又は名称】 株式会社 オフィス オザワ
【代表者】 小 澤 茂 男

【代理人】
【識別番号】 100093399
【弁理士】
【氏名又は名称】 瀬 谷 徹

【選任した代理人】
【識別番号】 100062867
【弁理士】
【氏名又は名称】 伊 藤 晴 之

【選任した代理人】
【識別番号】 100086117
【弁理士】
【氏名又は名称】 斉 藤 栄 一

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 050430
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1

【物件名】	図面	1
【物件名】	要約書	1
【プルーフの要否】	要	

【書類名】 明細書

【発明の名称】 収納バッグ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 外袋と、前記外袋と独立した空間を有し、前記外袋内に収納される一個以上の収納袋とを備えていることを特徴とする収納バッグ。

【請求項 2】 少なくとも一個の前記収納袋は、加熱によって内部の液体が流出可能となっていることを特徴とする請求項 1 記載の収納バッグ。

【請求項 3】 前記外袋は、蒸気抜き孔を備えていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の収納バッグ。

【請求項 4】 前記外袋の下面に熱湯抜き孔を備えていることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかに記載の収納バッグ

【請求項 5】 前記収納袋が熱湯の通過を可能としていることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載の収納バッグ。

【請求項 6】 少なくとも一個の前記収納袋の内部に、液体が収納されると共に、この液体を加熱する加熱手段が収納されていることを特徴とする、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の収納バッグ。

【請求項 7】 前記蒸気抜き孔が、蒸気吹き出し時間の調整機能を備えた部材で塞がれていることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれかに記載の収納バッグ。

【請求項 8】 前記蒸気抜き孔が、前記外袋内の圧力を膨張度合いによって表す膨張自在な表示手段と一体に形成されていることを特徴とする、請求項 1 から 7 記載の収納バッグ。

【請求項 9】 前記加熱手段は前記収納袋内部と遮閉された密閉容器内に設けられ、化学反応によって発熱する少なくとも 2 種類の物質が外圧によって混合可能に離隔して収納されていることを特徴とする請求項 1 から 8 記載の収納バッグ。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、加工（加熱又は混合）しようとする複数の液体、もしくは前記液体と物品との混合を、外圧又は電子レンジ等を利用した加熱により一個の外装内にて行うことを可能にした収納バッグと、液体収納袋内で液体と混合されることなく独立した袋内で発熱化学反応を発生させ、その熱のみ利用することを可能にした発熱手段を備えた収納バッグに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来、液体又は複数の品を加熱したり混合して利用しようとする時には、それぞれが別の容器等に入っていたり、加熱の為の器具を用意したりする必要があり、準備に手間と時間がかかった。これらの作業を簡単に一つの外袋内にて行うことが出来る構造を有する物は無かった。食品においては調理の手間を省くため、容易に飲食できる状態にできるものとして、調理済みの食品を冷凍パックした冷凍食品や加工食品があるが、茶、コーヒー、のような水を使い、また、その水を加熱しなければならないような飲料は、一般に用意するのに手間がかかり、加熱するだけで飲むことができるようなものは従来なかった。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

品質の異なる複数の液体、もしくはそれら液体と物品とが混合されると、急速にその品質を劣化せしめ、食品に於いては味覚を失わせると共に、有効期限を短くしてしまうという問題があった。冷凍食品は、解凍に手間がかかるとともに、食品の味が悪くなるという問題点を有しており、加工食品は、既に味付けがしてあるため、長時間経過すると味が低下してくる。電子レンジで加熱しただけで食べられるものもあるが、品種が限られており、味付けも簡単なものに限られるという問題点を有している。

【 0 0 0 4 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、手軽に複数の物を加熱もしくは混合することを一個の袋内にて行うことを可能にするため、外袋内に複数の収納袋を備え、少なくとも収納袋の一つが液体収納袋であり、場合によってその液体収納袋内に加熱手段を持っているこ

とを特徴とした基本構造を有する。すなわち、上面に収納バッグ内部の圧力に伴って出来る蒸気抜き孔が形成された耐熱性の外袋と、食品収納袋及び液体を収納して外袋内に具えられた耐熱性の液体収納袋とを有し、その収納バッグが電子レンジ等にて加熱されたとき、液体収納袋内の液体が液体袋内部の圧力によって、液体収納袋外に流出し、液体の通過を許容する食品収納袋内の食品を液体で浸したり、加熱することを可能にした。また、液体収納袋が複数である場合には、複数液体の混合が一つの外袋内にて行われることになる。

【0005】

同様に上面に蒸気抜き孔を有し、下面に熱湯抜き孔が形成された耐熱性の外袋と、飲食品を収納し外袋内に具えられ、熱湯の通過を許容する耐熱性の飲食品収納袋と、液体を収納して、飲食品収納袋の上に重ねられて外袋内に具えられた、耐熱性の液体収納袋とを有し、外袋を電子レンジ等にて加熱したとき、液体収納袋内の液体が沸騰し、熱湯が飲食品収納袋上に流出することを特徴とした収納バッグである。尚、蒸気抜き孔と、熱湯抜き孔と、液体収納袋に備えられた液体の流出を可能にする手段は、それぞれ加熱されることによって形成される孔であって、加熱以前にはシールで閉じられている。また、それぞれの孔のシールは剥がれるタイミングが異なっている。従って加熱条件の違いとか、もしくはシールの強度、あるいは材質によって蒸気吹き出し時間は任意に設定することが出来る。膨張自在な表示手段については、この蒸気吹き出しが収納バッグ内部の蒸気圧の変化を、目視可能に取り付けたものである。

【0006】

更に、外袋を加熱する方法として、液体収納袋内に加熱手段を備える事によって前記の課題を解決した。すなわち加熱手段は、液体収納袋内に独立して設けられ、化学発熱反応により熱を発生させる為の少なくとも二種類の物質を、使用時に混合することによって得られる熱発生の手段を有するものである。

【0007】

【発明の実施の形態】

図1において収納バッグは、外袋1、液体収納袋3、飲食品等収納袋7、加熱手段6で構成されている。各袋は、耐熱性に優れた2枚の合成樹脂素材を重ね、

周囲を熱シールを施して接着して作られている。外袋 1 の上面には蒸気抜き孔 4 が、下面には熱湯抜き孔 5 がシールで覆われて形成されている。外袋 1 は内部が高圧になるので、孔が裂けないように補強用シールが上面の外側と下面の内部に貼りつけてある。上面の内側には水蒸気圧排出調整パッキンシールが貼りつけてある。水蒸気圧排出調整パッキンシールは水に強く、通気性と弾力に優れた厚み 2 mm 乃至 5 mm 程度の発砲ポリエステル、植毛ウレタンフォーム等からなるものである。

【 0 0 0 8 】

液体収納袋 3 も外袋 1 と同様の合成樹脂素材を同様に 2 枚重ねて、周囲を熱シールを施し接着して袋状に作られており、液体を収納している。液体収納袋 3 内の液体は加熱することによって、液体収納袋 3 の外に流出するが、孔の位置によって、前記液体の流出温度を調節することができる。図は流出する孔の位置を上部に形成し、蒸気として流出させるようにした図であるが、下部に形成することも可能である。この場合液体収納袋 3 内の蒸気圧は、上部に形成した時より高い蒸気圧で開くように閉じていなければならない。図 2 は液体収納袋 3 から液体が流出した状態を表す図であり、図 3 は収納バッグ内部の蒸気圧によって膨張することで、目視可能となる膨張可能な部材に、蒸気抜き孔 4 を形成した図である。いずれの図も液体収納袋 3 内部に加熱手段 6 を備えた図であるが、電子レンジで加熱する場合には、これら加熱手段 6 を収納袋 7 内部に持つ必要はない。図 3 における加熱時間表示 8 は蒸気が噴き出す時間を表示したもので危険防止に役立つ。

【 0 0 0 9 】

飲食品収納袋 7 には、紅茶、日本茶、烏龍茶等の嗜好品を収納してもよく、耐熱、耐寒性に優れた 2 枚の合成樹脂素材からなる細毛ネット又は不織物の布を重ね、周囲も幅 5 mm 乃至 1 0 mm 程度に接着して作られ、濾過袋の役目もしている。コーヒーの挽き豆を収納する場合は、飲食品収納袋 7 として挽き豆を上下から濾過紙によって挟まれている状態にて使用する。飲食品収納袋 7 の下面には、紅茶、或いは、コーヒーになった熱湯の通過を迅速且つ円滑に行う目的と、飲食品収納袋 7 内の圧力調整機能を円滑に行うために、1 本または数本もしくはクロ

スする形で約 0. 5 mm 程度の合成樹脂素材繊維系或いはネットが具えられている。飲食品収納袋 7 は外袋 1 の下面内側に熱シールを施して貼りつけられている。

【0 0 1 0】

液体内部に備えられた加熱手段 6 については、化学反応を利用するため二重構造とし、一方に水や油性オイルを使用し他方にカルシウムと炭素とからなる化合物などを利用し、使用時に反応させ高温にできるものが考えられる。

【0 0 1 1】

【発明の効果】

以上に説明した、本発明の収納バッグは、電子レンジのような熱発生器を利用して、全く新しい簡便な方法で、飲食品を加工したり味付けしたりできる方法を提供すると共に、コーヒー、お茶等の嗜好品を水を新たに用意することなく、飲める状態にすることができるよう考慮されている。また、複数の品を使用時に混合もしくは加工可能にする為、品質を安定に保ち味覚を損なうようなこともなく供給することを可能にする。

【0 0 1 2】

同様に、内部熱発生装置により、電子レンジのような熱発生装置すら必要としない簡便な加工方法を提供するものである為、地震発生等の非常時や災害時に、又、救援を必要とする地域への援助物資としての活用など、産業に多大な貢献をすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

収納バッグの概略断面図である。

【図 2】

収納バッグの動作説明図である。

【図 3】

内部の蒸気圧の上昇に伴って膨張した表示袋の説明図である。

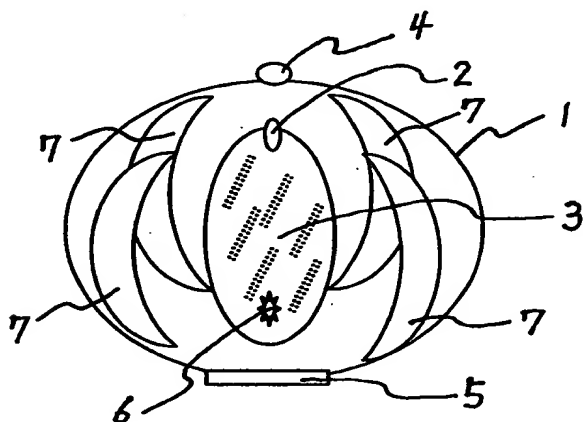
【符号の説明】

1 外袋

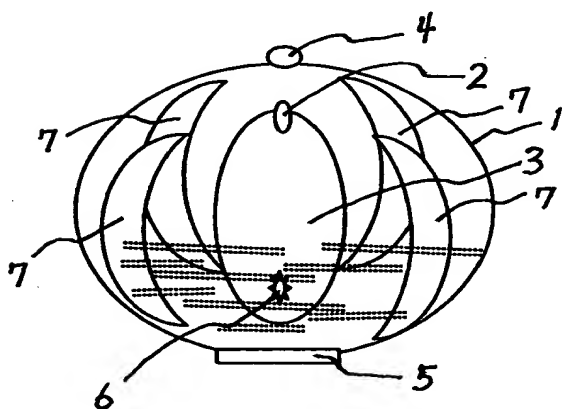
- 2 液体抜き孔
- 3 液体収納袋
- 4 蒸気抜き孔
- 5 熱湯抜き孔
- 6 加熱手段
- 7 収納袋
- 8 加熱時間表示

【書類名】 図面

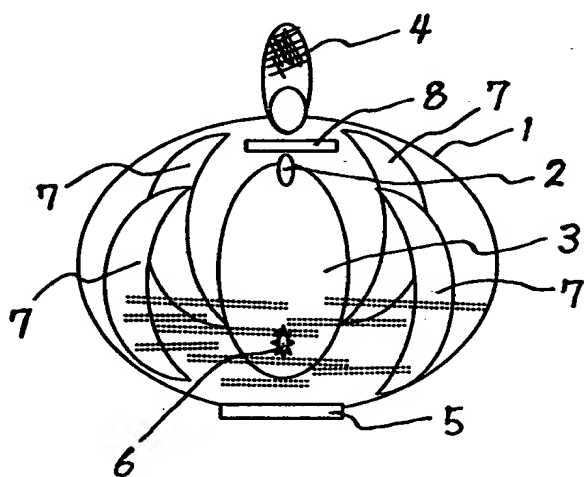
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 品質の異なる複数の液体の加工、もしくは液体と物品との加工を、簡単に手軽に行う方法を得ること。

【解決手段】 複数収納袋を一個の外袋に収納し、複数収納袋の少なくとも一個を液体収納袋とすることによって、加熱により、液体収納袋から液体が流出することを特徴とした収納バッグである。また、流出した液体もしくは外袋内の他の複数収納袋内の物は相互に混合、もしくは、接触する事により加工され利用されることを特徴とする。従って外袋下部より加工された液体を取り出し飲食に用いることも可能である。加熱手段は電子レンジ等の外部加熱手段を用いるか、液体収納袋内部に備えられた独立した容器からなる加熱手段を用いる。加熱手段としては、化学発熱反応を利用し、使用時に少なくとも二種類の物質を反応させ、発生する熱のみ利用可能としたものである。

【選択図】 図 3

認定・付加情報

特許出願の番号	平成11年 特許願 第313128号
受付番号	59901075063
書類名	特許願
担当官	松田 渉 7486
作成日	平成11年11月16日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成11年11月 2日
【特許出願人】	
【識別番号】	599155165
【住所又は居所】	東京都港区三田二丁目7番9号
【氏名又は名称】	株式会社 オフィス オザワ
【代理人】	申請人
【識別番号】	100093399
【住所又は居所】	東京都港区赤坂3-8-14 遠山ビルディング 共生国際特許事務所
【氏名又は名称】	瀬谷 徹
【選任した代理人】	
【識別番号】	100062867
【住所又は居所】	東京都港区赤坂3丁目8番14号 遠山ビルディ ング 共生国際特許事務所
【氏名又は名称】	伊藤 晴之
【選任した代理人】	
【識別番号】	100086117
【住所又は居所】	東京都港区赤坂3丁目8番14号 遠山ビル3階 共生国際特許事務所
【氏名又は名称】	斎藤 栄一

【書類名】 手続補正書

【提出日】 平成12年 2月18日

【あて先】 特許庁長官 近 藤 隆 彦 殿

【事件の表示】

【出願番号】 平成11年特許願第313128号

【補正をする者】

【住所又は居所】 東京都港区三田二丁目7番9号

【氏名又は名称】 株式会社オフィスオザワ

【代理人】

【識別番号】 100093399

【弁理士】

【氏名又は名称】 瀬 谷 徹

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許願

【補正対象項目名】 発明者

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区三田二丁目7番9号

【氏名】 小 澤 茂 男

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 手続補正書

【整理番号】 K1751H01

【提出日】 平成12年 6月26日

【あて先】 特許庁長官 近 藤 隆 彦 殿

【事件の表示】

 【出願番号】 平成11年特許願第313128号

【補正をする者】

 【住所又は居所】 東京都港区三田二丁目7番9号

 【氏名又は名称】 株式会社 オフィス オザワ

 【代表者】 小 澤 茂 雄

【復代理人】

 【識別番号】 100086117

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 斎 藤 栄 一

【手続補正 1】

 【補正対象書類名】 明細書

 【補正対象項目名】 請求項4

 【補正方法】 変更

 【補正の内容】 1

【手続補正 2】

 【補正対象書類名】 明細書

 【補正対象項目名】 0 0 0 8

 【補正方法】 変更

 【補正の内容】 2

【手続補正 3】

 【補正対象書類名】 明細書

 【補正対象項目名】 0 0 1 0

 【補正方法】 変更

 【補正の内容】 3

【プルーフの要否】 要

【請求項 4】 前記外袋の下面に熱湯抜き孔を備えていることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかに記載の収納バッグ。

【0008】

液体収納袋 3 も外袋 1 と同様の合成樹脂素材を同様に 2 枚重ねて、周囲を熱シールを施し接着して袋状に作られており、液体を収納している。液体収納袋 3 内の液体は加熱することによって、液体収納袋 3 の外に流出するが、孔の位置によって、前記液体の流出温度を調節することができる。図 1 は流出する孔の位置を上部に形成し、蒸気として流出させるようにした図であるが、下部に形成することも可能である。この場合液体収納袋 3 内の蒸気圧は、上部に形成した時より高い蒸気圧で開くように閉じていなければならない。図 2 は液体収納袋 3 から液体が流出した状態を表す図であり、図 3 は収納バッグ内部の蒸気圧によって膨張することで、目視可能となる膨張可能な部材に、蒸気抜き孔 4 を形成した図である。いずれの図も液体収納袋 3 内部に加熱手段 6 を備えた図であるが、電子レンジで加熱する場合には、これら加熱手段 6 を収納袋 7 内部に持つ必要はない。図 3 における加熱時間表示 8 は、蒸気が噴き出す時間を表示したもので、危険防止に役立つ。

【0010】

液体内部に備えられた加熱手段6については、化学反応を利用するため二重構造とし、一方に水や油性オイルを使用し他方にカルシウムと炭素とからなる化合物などを利用し、使用時に反応させて水や油性オイルを高温にする。

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [599155165]

1. 変更年月日 1999年11月 2日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都港区三田二丁目7番9号

氏 名 株式会社 オフィス オザワ